

保護者の皆様

横浜市立中川中学校  
校長 安藤 位彦

## 令和元年度 (平成31年度) 全国学力学習状況調査の結果について

平成 31 年 4 月 18 日に実施されました、「全国学力学習状況調査」(本校 3 年生 222 名実施) の調査結果が文部科学省から発表されました。つきましては、本校の学力学習状況についての調査結果の概要を報告いたします。

### 【全校学力学習状況調査結果チャート】 から見える大まかな傾向



★中央- - - -線の円がそれぞれ左が「全国基準」、右が「神奈川県基準」と比較したものであり、色がついている部分が本校の値。

顕著に表れている本校の 3 年生の傾向としては

- 全般的な学力が高く、その中でも英語の学力がかなり高い。
- 教科に対しての関心については、数学への関心が特に高い。
- 規範意識は高く、自己有用感が低い。

### 【各教科の調査結果】 平均正答率で県・全国と比較

#### 【国語】

分類	区分	設問数	平均正答率(%)		
			中川中	県	全国
全体		10	79	73	72.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	77.3	70.6	70.2
	書くこと	2	86.0	82.0	82.6
	読むこと	3	81.1	72.5	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	70.9	67.0	67.7

評価の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	82.0	76.3	76.5
	話す・聞く能力	3	77.3	70.6	70.2
	書く能力	2	86.0	82.0	82.6
	読む能力	3	81.1	72.5	72.2
	言語についての知識・理解・技能	2	70.9	67.0	67.7
問題形 式	選択式	6	80.9	73.8	73.6
	短答式	1	58.1	55.4	56.8
	記述式	3	82.0	76.3	76.5

### 【数学】

分類	区分	設問数	平均正答率(%)		
			中川中	県	全国
全体		16	68	59	59.8
学習指 導要領 の 領域等	数と式	5	74.0	64.1	63.8
	図形	4	82.9	73.5	72.4
	関数	3	49.7	39.4	40.8
	資料の活用	4	61.4	54.7	56.3
評価の 観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	8	59.2	51.7	51.0
	数学的な技能	3	74.9	62.4	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	79.5	70.2	71.3
問題形 式	選択式	5	64.2	59.8	60.3
	短答式	7	78.9	66.1	66.6
	記述式	4	55.6	47.4	47.1

### 【英語】聞くこと・読むこと・書くこと

分類	区分	設問数	平均正答率(%)		
			中川中	県	全国
全体		21	70	59	56.0
学習指 導要領 の 領域等	聞くこと	7	75.2	70.1	67.9
	話すこと（参考値）				
	読むこと	6	68.4	57.4	55.6
	書くこと	8	67.9	49.7	45.8
評価の 観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0			
	外国語表現の能力	1	9.9	2.4	1.8
	外国語理解の能力	6	54.9	46.7	44.7
	言語や文化についての知識・理解	14	81.5	67.9	64.7
問題形 式	選択式	13	82.6	73.6	71.4
	短答式	5	71.9	50.1	45.2
	記述式	3	15.5	8.7	6.8

## 【英語】話すこと(参考値として公表)

分類	区分	設問数	平均正答率(%)	
			中川中	全国
全体		5	42	30.8
学習指導要領の領域等	聞くこと			
	話すこと(参考値)	5	41.8	30.8
	読むこと			
	書くこと			
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0		
	外国語表現の能力	2	41.2	28.1
	外国語理解の能力	0		
	言語や文化についての知識・理解	3	42.2	32.6
問題形式	選択式	0		
	短答式	3	42.2	32.6
	記述式	2	41.2	28.1

### 【調査についてと結果概要】

本年度は国語・数学に加え新たに英語が調査科目に加わり全3教科で実施されました。この英語に関してはPC室にて一人ずつマイク付きレシーバーをつけて一人ずつPC画面を見ながら答える【話すこと】の調査も別途加わったことは、事前の通知や様々な報道を通じて御存じかと思えます。この【話すこと】に関する調査に関しては、本年度は全国的にも課題が残されることとなり、あくまでも参考値として公表しています。また、英語が加わったことにより、例年の調査では、【A主として知識】、【B主として活用】を調査していましたが、本年度はその区別なく調査が実施されました。

調査結果は8月下旬に公表され、生徒には調査結果を配布するとともに、学校として本校の学力・学習状況の把握・分析を行い、今後の学校運営や教育課程の運営改善、授業改善など、様々な学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てていきます。

本校の調査結果はチャート図や表を見ていただければわかるとおり、県や全国の正答率と比較してみると、高いレベルの学力であると言えます。すべての項目において平均値を10ポイント程度上回っています。特に数学・英語に関する学力に関してはその特長は顕著です。国語もここ何年か他の教科に比べると、いくつかの領域において若干課題が残されていましたが、本年度の3年生に関しては改善されている傾向です。今後さらに国語科の課題として考えられることは、「言語に関すること(言語文化や言語についての知識・理解・技能、国語の特質に関すること)」であると考察できます。

生徒質問紙による、学習や生活に関する意識調査も本調査では行われました。本校の生徒の日常の生活習慣については、おおむね良好であり、特に<朝食の摂取>などの結果は大変良い結果が出ています。また、<規範意識>は大変高いものがあり、落ち着いて学習に取り組む姿勢につながっているものと思われます。学校の授業時間以外の<毎日の家庭学習(塾等での学習を含む)の時間>については、3時間以上の学習時間と回答した生徒が全国平均と比較して20ポイントほど高い数値となっています。授業で学んだことの復習やこれから学ぶことの予習を心がけている生徒が多いと言えます。

チャート図や生徒質問紙から「自己有用感」に関する質問の回答に課題が見えてきています。将来に対する夢や希望の実現に向けて、自分は具体的に何をしたらよいのか、自分が社会に出た後にどんな役割が果たせるのか、自分の個性や良さをどのような形で日常生活の中で示していくとよいかなど、本校の課題としなければいけないものがあります。今後も本校の「信頼と共感」の学校教育目標のもと、豊かな心の育成を図っていく必要があると思われます。